

Winter
2007
Vol.6

ナラヲヨム

2007

あじわう奈良

ナラヲヨム

第6号 2007年2月17日発行

発行者●ナラヲヨム発行委員会 発行責任者●乾昌弘 企画編集●奈良県立図書館情報部



若い奈良

WAKAJI NARA NO.6

1300年の伝統をもつ奈良。
長い歴史に新たなページを創る
若い力があります。
新しい風の“今”をお伝えします。

女優 尾野真千子

Ono Machiko

163cm

1981. 11. 4 奈良県出身

■主な作品

【T V】

「余命半年」NHK
「女性捜査班 アイキャッチャー」NHK
「ひかりのまち」(主演) ANB
「介護ビジネス」NHK
「Ready Made」NTV
「明日は隣のそばで」K T V
「誓なき者」ANB
「人間の証明」CX
「致命病棟24時」CX
NHK大河ドラマ『義経』NHK
連続テレビ小説「芋たこなんきん」NHK
「東京タワー」CX

【映 画】

「萌の朱雀」/河瀬直美監督
～1997年 カヌ国際映画祭カメラドール賞受賞作品～
～1997年 シンガポール国際映画祭主演女優賞受賞～
～1998年 高崎映画祭最優秀新人女優賞受賞～
「万華鏡」/河瀬直美監督
「ユリイカ」/青山真治監督
～2000年・カナ国際映画祭コンペティション
部門正式出品作品
国際批評家連盟賞受賞作品～
「あしたはきっと…」/三原光尋監督
「man hole」/鈴木貴之監督
「ギブス」/塩田明彦監督
「リアリズムの宿」/山下敦弘監督
～2003年 トロント国際映画祭/釜山国際映画祭
正式出品作品～
～2004年 釜山国際映画祭 正式出品作品～
「世界の中心で愛をさけぶ」/行定 勲監督
「茶の味」/石井克人監督
「ナイスの森」/石井克人監督
「ありがとう」/万田邦敏監督
「穠(もがりの)の森」(主演)07年初夏公開予定
/河瀬直美 監督

【C M】

「FLET'S光」NTT東日本
「ACUO」ロッテ

(株)コムスシフト

〒107-0061

港区北青山1-2-7コウツキキャピタル4F

TEL : 03-3470-8581 FAX : 03-3470-8583



『萌の朱雀』から十年、
今の私を表現したい！
河瀬直美監督への挑戦



■写真撮影：辻村守

ナラヲヨム Vol.6

CONTENTS

- 1 若い奈良
女優 尾野真千子
- 4 特集 あじわう 奈良
朝を味わう ～三輪の朝～
昼を味わう ～伝統と伝説～
夜を味わう ～大和：早春の夜に～
- 10 図書館情報トピックス
まほろばのみほとけたち「奈良大和路仏像ポスター展」
- 11 図書館情報誌が読む
アインシュタインと奈良
- 12 河瀬ワールド
穠の森を訪ねて 第四章
- 14 NARA発信倶楽部
企業人に聞く
株式会社三輪そうめん山本 代表取締役社長 山本太治氏
- 16 編集後記

「河瀬直美監督との出会いは？」

「ご存知のとおり、『萌の朱雀』は、西吉野村（現五條市）を舞台にした映画ですが、監督は、地元でヒロインを探しておられて、村内の中学校を回っておられたんです。ちょうど私の学校に来られたときは、掃除の時間で、監督は掃除の掃除をしていたんですが、河瀬監督は、箱除をしていて私の横にやがみこんで、じっと見たり、写真を撮ったりしていったんです。そして、その日の放課後、再度会って、そこでスカウトされました。それが河瀬監督との出会いでした。」

「それでどうされたんですか？」

「そのときは、何も分らないし、どうしていいのかも分らなかつたので、両親に聞いてみました。なぜだか分らないのですが、あまり自分の意思をはっきり言ったことのない私が「やってみよう」と言っただけで、驚いた様子でしたが、高校受験も控えて、驚いた特には反対はしませんでした。それでも、河瀬監督の気持ちは変わらず、「勉強は私が責任をもつて教える」と、監督自身が父を口説いたんです。そしてついに、高校にもちゃんと行く、という条件で、父は許してくれました。」

「『萌の朱雀』に出演されて、その後は？」

「『萌の朱雀』の仕事が終わった後、私は河瀬」



Ono Machiko

「東京でのお仕事ですが」

「今は、表現することが楽しいです。仕事があるにこしたことはないのですが、次はこんな仕事をしたという希望はあまりありません。次に何かの仕事が来て、どのような仕事であれ、「やつてやろうじやないか。」という気持ちで仕事しています。恥ずかしいんですけど、持たせてくれます。だんだん楽しくなってきたんです。仕事だけれど仕事でなくなっているような、のめりこむ自分が楽しいみたいなものですが、自分が楽しめる仕事でありたいなと思います。」

「『殞の森』について聞かせてください。」

「事務所から『殞の森』のオーディションがあるという知らせがありました。事務所は受けろといつたのですが、私は正直、いやでした。『萌の朱雀』から十年が経とうとしていますが、まだ何もできていないのではないかと、河瀬監督の前に女優としてたつことが怖く、早いオーディションで落ちても、通行人としてでも出演できたら、という気持ちもありました。河瀬監督とも会いた。オーディションでは、オーディションでは、適当にはできないし、気持ちも入り、胃が痛くなったりしました。河瀬監督は何時間もじつと見つめてくれます。すごいプレッシャーの中で、中途半端な自分を見透かされているようで、それでいて、『萌の朱雀』の自分に戻」



河瀬監督からひとこと

「撮影はいかがでしたか。」
「たいへんでした。特に、撮影の間、一週間ほど腸炎と発熱に苦しんだんですが、その最中に雨の中を濁流に逆らって歩くシーンがあったのですが、本当に怖かった。また、相手役」

私が彼女に紹介した事務所は、小林薫さんや田中裕子さんが所属している事務所です。この事務所は、「息の長い、成長の可能性のある俳優を育てる」というコンセプトを持っています。社長さんも、この十年間、彼女を見つめて育ててきたわけです。今回の『殞の森』は、『萌の朱雀』をこえたという想いで制作しました。そんな中で、成長しつつある彼女の仕事は刺激的でしたし、これから一緒にやって行きたいと思います。また、事務所も彼女を応援していますし、少しずつ、機が熟しはじめていくように思います。日本映画には尾野という存在感が必ず生まれてくるだろうと思います。次回は、尾野真千子ありきで本を書きたいと思っています。人ありきでテーマを考えたいと思います。」



尾野さんにとっては、運命的な出会いでもあった河瀬監督とはどんな方ですか？

「もう一人の姉のような存在です。情熱的で、これまで見たことのない人です。誰に対してもズバズバものを言うのですが、私は投げかけられることばには、素直にうなずいてしまふんです。そんなところも両親が許すきっかけになったのかもしれない。」

「女優という仕事についてですが」

「中学時代には、特にやりたいことってありませんでした。姉は福祉関係の仕事についていましたし、何となく、福祉関係の仕事かOLになつて、結婚して子供を産んで、ごくありきたりの人生を考えていました。正直言つて今の仕事は、もつとも不得手な分野です。何せ恥ずかしがりやだし、人前に出るのがのすごく苦手だったので、河瀬監督からは「人の目をみて」と教えられました。また、「あなたのその目が好き。」とも。それが、今の自分に大きな影響を与えていると思えます。おかげで、今はいつでも相手の目をみて話しますし、相手の目に何が映っているのか」

「ところで、尾野さんにとっての奈良（西吉野）とは？」

「上京して七年になりますが、奈良に帰ると、「何年たつても変わらない、田舎くさくて、方言が出る。」と母によく言われます。もちろん標準語も勉強しているのですが、どこかで、変われたくない自分が戻りたい自分というか、忘れたくない自分があるんだと思います。」

「それほど、生まれ故郷に思い入れがある」と

「そうだと思います。東京にいても西吉野の空気みたいなものをどこかで探して感じているんだと思います。」

「最後の、尾野さんにとって最も好きな奈良は？」
「『風』です。どこにいてもその「風」を感じるんです。たとえば、東京のビルの谷間で、顔を背けたくなるような空気のなかでも、だからこそ、奈良のそよ風を心のどこかで感じて自分があります。田舎に帰ってまず感じるのが「風」なんです。」

「最後の、尾野さんにとって最も好きな奈良は？」
「『風』です。どこにいてもその「風」を感じるんです。たとえば、東京のビルの谷間で、顔を背けたくなるような空気のなかでも、だからこそ、奈良のそよ風を心のどこかで感じて自分があります。田舎に帰ってまず感じるのが「風」なんです。」



◀冷やしそうめん
そうめん料理の代表格
夏の定番です。



▶にゅうめん
寒い冬はあったかい
にゅうめんどうぞ。



▶かどぼし風景
三輪地方の冬の
風物詩。寒風に
曝され風味を増
していきます。



▶はしさばき作業風景
手延べそうめんはうどんや
そばと違い、ひっぱりなが
ら細くしていきます。「麺
ゆう館」では手延べ体験が
できます。



▶油かえし・ほそめ・こより作業風景
麺の乾燥と付着を防ぐために表面に綿実
油を塗り、擦りをかけながら少しずつ細
いひも状に延ばしていきます。

「卑弥呼の食卓」 / 吉川弘文館
大阪府立弥生文化博物館編



三輪山麓近くの「箸墓古墳」は一説によれば卑弥呼の墓とも言われています。卑弥呼の時代の食文化について多角的にアプローチした興味深い1冊です。

図書館
オススメの
一冊

三輪そうめん山本「麺ゆう館」

京阪奈丘陵に広がる関西文化学術研究都市の一角「ならやま研究パーク」にある「麺にふれ、麺に親しむ」ことをテーマとした施設です。そうめんを通じて食文化を創造する麺ゆう館では、そうめん手延べ作業を体験することもできます。



期間：10月～3月
(要予約・有料)
奈良市左京6-5-2
0742-72-3331(代)
月曜日休館

あじわう 奈良 特集

朝、昼、夜 -
繰り返されながら、時を超え、
育まれてきた奈良に出逢う

朝を味わう

～三輪の朝～

高さ467メートル、奈良盆地をめぐる青垣山の中でもひときわ目を引く形の美しい三輪山。この山をご神体とする大神神社は我が国最古の神社とされています。参拝する人々の息が白く光り、凜とした三輪の朝が始まります

肌を刺すような厳冬の朝風に曝されることで風味を増していく奈良の名産品があります。1200年前に起源を遡る「三輪そうめん」。三輪の風土が育んだ手延べの風味を、山の辺の冬景色と合わせてじっくりと味わって下さい。夏は冷やして、冬はあったかいにゅうめんまで、味わっていただけます。



▶大神神社

大神神社のご神体とされる三輪山。山自体がご神体のため、大神神社には本殿は無く、代わりに拜殿があります。

▶三輪山冬景色



あじわう 奈良 特集

二上山の麓にある當麻寺は、聖徳太子の弟である麻呂子王の創建と伝えられ日本で唯一現存する奈良時代の双塔、白鳳時代の四天王や極楽浄土の光景を壮大な規模で再現された當麻曼荼羅（蓮系曼荼羅）など、多くの寺宝が存在する古刹です。中でも曼荼羅にまつわる中將姫伝説は名高く、毎年5月14日に行なわれる練供養会式には多くの人が見物に集まります。この行事も當麻曼荼羅と中將姫にかかわるもので、中將姫伝説は當麻寺を知る上で欠かせないものと言えます。境内には幾つもの塔頭が並び春には色鮮やかなボタンが出現してくれま。豊かな二上山の自然・當麻の里を満喫した後は、中將姫にちなんで名付けられた「中將餅」を味わいながら疲れをほぐしてはいかがでしょう。この里に昔から伝わるよもぎの餅にこしあんをのせ、ボタンの花びらを型どった和菓子には、当麻に野生するよもぎの香りとほのかな苦みがあり、甘味を押しえたこしあんと調和した味わいは絶妙です。



中將餅



『日本大和州當麻寺化人織造藕絲西方境縁起説』



「観女紡織図」

十七歳で仏門に入った中將姫は、曼荼羅を織ることを決意する。石光寺の井戸で五色に染まった蓮糸を使い、一夜にして一丈5尺（約4m四方）もの蓮系曼荼羅を織り上げた。姫が二十九歳の春、雲間から一丈の光明とともに、阿彌陀如来を始めとする二十五菩薩が来迎され、姫は、西方極楽浄土へ向かわれたと伝えられている。

図書情報館
オススメの
一冊



諸鍛神社おんだ祭り

昼を味わう
～伝統と伝説～

いにしへ 古のロマンと早春をあじわう

葛城市内の四社でおんだ祭りが行われています。早春、農業を始める前に、氏子たちが神社の境内に集まり社殿前を田に見立て、まず木製の「ふる鍬」で土地を耕す仕事をします。特に葛木坐火雷神社（笛吹神社）では、実際の鍬の場合、先端に鉄の刃が付いているので黒く塗った鍬を使います。次に牛の面を着けた人が登場し、田をすく作業を演じます。元気な牛で、周りで見物している人の中に角を向けて駆け込んだりします。続いて「馬鍬」を引いて土を細かく砕いてならします。神社によっては木製のスコップのように見える鍬で、畦を整えたりもします。この後杉の小枝を使って苗の形を作り、これを田に植えて行事は終了です。



長尾神社おんだ祭り

葛木坐火雷神社おんだ祭り



- 1月 9日 諸鍛神社
- 2月11日 葛木坐火雷神社(笛吹神社)
- 3月 6日 調田坐一事尼古神社
- 4月10日 住吉神社



白キツネへのお供え

寒遷御
 寒の入から立春のまでの間を「寒」という。「寒」の間には、おいなりさんの寒遷御がおこなわれる。これは、各町内や村の子供たちが、寒い夜に稲荷神社に仕える白きつねが好物に不自由するからときつねの好物の油揚げと赤飯のおにぎりをお供えにいくのだといわれている。

夜を味わう

～大和: 早春の夜に～

闇に浮かぶほのかな灯り、
 更けゆく夜に行われる伝統行事。
 昼間とは異なる趣がみられます。

登廊

長谷寺の総門、仁王門から本堂までを399段のゆるやかな石段が続きます。長谷寺のシンボルともいえる登廊は全長約20メートル、上・中・下の三廊に分かれた回廊です。また、屋根を備えたこの登廊の天井からは灯籠が吊るされています。大晦日から新年まで日にかけては「観音万灯会」が行われ、登廊にもされた灯りが優しく闇を揺れます。

この登廊の下段を登りきつた脇には天狗杉とよばれる大きな杉の木があります。むかし長谷寺で修行をしていた僧は毎晩登廊の灯籠ひとつひとつに灯りをいれなければなりません。ところがつづけるそばから灯りは消えていきます。それは回廊のそばに茂る杉の木々に棲む天狗の悪戯だったのです。僧は大そう怒り、いつか自分が偉くなったらこれらの杉を全部伐り払ってやるかと修行に励みました。のちに高僧となったこの僧は、寺の再建にあたり杉の木を伐採しましたが1本だけは天狗の棲家として残してあげたということです。

修二会(お水取り)

奈良では、「大和茶がゆ」といわれるほど、茶がゆを朝夕に食べていたとされている。また、東大寺の修二会(お水取り)の練行衆の食事の記録には、「ごぼ」「あげちや」など茶がゆの記述が見られる。練行衆と呼ばれる参籠僧の食事は、本行に入ると一日に二食となり、正午に「食堂の作

法」のみを取る。そして、その日の法要が終わる午前二時ごろまでは、湯茶も口にするには出来ないという。一日の法要が終わる、宿舎に戻ると、就寝前に「ごぼ」と呼ばれる茶がゆの重湯を飲んで就寝するという。※「あげちや」：茶がゆの重湯をとった残りをいう。

『大和の食文化』
 / 富岡典子著 奈良新聞社

図書館
 オススメの
 一冊



『大和の食文化』は、奈良県の郷土料理や行事食など歴史を含めて紹介しています。加えて、レシピも紹介されています。

また、奈良県内の地域を比較し、朝・昼・晩の食事や行事食については、『聞き書 奈良の食事 (日本の食生活全集29)』(農山漁村文化協会)や『大和の味』(奈良新聞社)で紹介されています。



長谷寺・登廊



写真提供: 総本山長谷寺



アインシュタインと奈良。

図書情報館が
読む
vol.05

Einstein
with
NARA

相対性理論をはじめとした数々の業績を残し、20世紀最大の理論物理学者と言われる、アインシュタイン。そのアインシュタインが訪日の際、奈良にも訪れていたことはあまり知られていない。当館資料からこの知られざるアインシュタインの奈良訪問をおもてみたい。



奈良ホテルロビー
(上)現在
(下)当時



当時の新聞記事

アインシュタインは大正11年(1922年)11月17日から12月29日の43日間、改造社の招待を受け来日している。その間、精力的に講演を行なうとともに日本各地を観光している。奈良にも12月17日から12月19日まで観光目的で滞在している。当館所蔵の12月19日付け大阪朝日新聞大和版マイクロフィルム版によれば、12月17日夜10時に奈良に到着したアインシュタインは奈良ホテルに宿泊。「ひじょうに上品な、半和式、半洋式のホテルだった(アインシュタイン日本で相対論を語るより)」と評している。

翌18日午前には奈良公園の鹿の群れに戯れながら散策し、春日大社、大仏殿、二月堂を見学し、午後からは奈良国立博物館を巡覧。その際、おりから催されていた春日大社のおん祭の能楽を見学し珍しがったとの記事が残されている。また、奈良ホテルの「桜の間(ロビー)」でピアノを弾くアインシュタインの写真が残っており無類の音楽好きとして知られ、自らもバイオリンを良くしたアインシュタインらしいエピソードと言えるだろう。

19日午前中に若草山に登ったアインシュタインは、「山はこういふえなうれしい気持ちにさせてくれ、日本人たちは春へと移り変わる無上の喜びを感じていた(同掲)」と書き残している。

こうして約2日間の奈良滞在を終えたアインシュタインは19日午後6時24分(12月20日付け大阪朝日新聞大和版、同日付け大阪朝日新聞夕刊)では午後6時

図書情報館オススメの一冊

「アインシュタイン日本で相対論を語る」/アインシュタイン著 (杉元賢治 編訳) 講談社
アインシュタインの日本滞在の旅日記。奈良ホテルでピアノを弾くアインシュタインの写真も所収。また、当時の世相や彼の来日が及ぼした影響については、「アインシュタイン・ショック」(金子 勉著 岩波書店)に詳しい。その他、東京大学での講義録、「アインシュタインの東京大学講義録その時物理学が動いた」(杉元賢治編著 大竹出版)など。

(参考資料)
大正11年12月19日付け大阪朝日新聞大和版
大正11年12月20日付け大阪朝日新聞大和版、同夕刊
協力:写真提供
奈良ホテル
奈良市高畑町1096
0742-26-3300(代表) <http://www.narahotel.co.jp/>



図書情報館
トビックス

まほろばのみほとけたち

『奈良大和路仏像ポスター展』

明るく開放的な2階エントランスホールスペースを活用して、これまで「ベルサイユのばら」の時代展やミニコンサートなど多彩な催しや展示を行ってきました。今回は昨年末に開催した「奈良大和路仏像ポスター展」の様子をご紹介します。県などが制作してきた仏像を題材とした観光誘致ポスター40点を一堂に展覧したのですが、あらためて本県が仏像の宝庫であることを知る機会となりました。今後も毎年新作ポスターが制作されるとのこと、今後のコレクションの充実も楽しみます。



(右から)興福寺仏頭(昭和39年作)東京オリンピックの開催を意図したローマ字表記ポスター
東大寺三月堂月光菩薩像(昭和44年作・大阪万博マーク入り)
西大寺聖徳太子像(昭和63年作・なごさくロード橋マーク入り)
秋篠寺法華天立像(平成18年作・最新作)

「奈良大和路仏像ポスター」は、奈良県、奈良市、JR西日本(旧国鉄)、近鉄、奈良交通の五者が共同で制作している観光誘致ポスターで、その第1作は昭和29年の「興福寺仏頭」に選りまします。以降年1〜2作のペースで制作を続け、現在第86作となる「秋篠寺法華天立像」が最新作です。

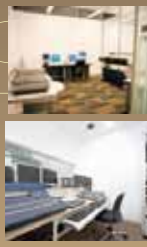
作品中には、昭和45年の大阪万博のシンボルマークが刷り込まれたポスターなどもあり、時代を感じさせてくれます。

「想いをかたたらに」

デジタルスタジオ・オーサリングルームのご利用を

今回の仏像ポスター展のタイトルパネルをはじめPRポスターの制作は当館のデジタルスタジオ及びオーサリングルームで行いました。枚数の少ない印刷物などは経費の面でも安上がりで、思い通りに加工できるので、とても便利です。また、印刷物だけでなく、動画の作成・編集もできます。あなたも一度チャレンジしてみてください。当館のスタッフが優しくサポートしながら作業するので初めての方でも安心ですよ。

■オーサリングルーム350円/時間 ■デジタルスタジオ700円/時間



河瀬ワールド

殞の森を訪ねて 第四章

『殞の森を訪ねて』もおかげ様で第四章をむかえることができました。今回は、日本とは文化も生活習慣も異なるフランスとの共同制作についてお話をしました。世界に発信する奈良の映画としての誕生が待ちどおしいかぎりです。今後の作業を見守ってゆきたいと思います。



映画「殞の森」の編集作業をフランスでされたとお聞きしました。

河瀬 はい、今回の映画はフランスからの投資もいただいて製作しています。つまり、日仏合作ということになるため、彼らの意見も参考にして制作は進められてゆきます。夏に撮影した素材をもとに日本での編集作業を終え、フランスのスタッフに試写してもらうために渡仏してきました。それが9月末のことです。正直自分の編集に自信もあり「なおみ、素晴らしい映画だね」と言ってもらえると思いでいたのです。ところが、試写を終えての感想はシビアなものでした。

どういった反応だったのですか？

河瀬 認知症役のしげきに魅力がない。カメラ

ラアングルに抑揚がない。森が神秘的でない等、言いたい放題でしたから、相当に落ち込みました。しかし、その反面嬉しくもあったのです。日本では、ほとんどが撮影現場を知っているスタッフ内での試写だったこともあるのか、彼らからはあまり明確な感想をもらえませんでした。「よかつた」という、わりと漠然とした意見がほとんどだったのです。

文化の違いが見解の違いになったのではないですか？

河瀬 いや、そんな単純なことではありません。島国日本は異文化との交流を得意とはしません。どこか自分たちと違うという理由だけで、ものごとを割り切って考えてしまいがちですが、そうではないのです。文化が違っても習慣が違っても、

基本的なものの見方は、外国人だから違う、のではなく、他人だから違うのです。つまり、そこに人種や性別の差異はありません。そうして柔軟にものごとを考えることができたとき、日本は国際社会の一員としてより深い成熟を遂げるのでしょうか。

それは奈良にもいえることではないですか？

河瀬 世界の日本、日本の奈良ということで考えればそうかも知れませんが、閉鎖的といわれる奈良の風土は、世界の日本に当てはめてみれば似たところがあるように感じます。しかしそれは自分たちの文化に誇りを持っているということの表れともいえるのではないのでしょうか？

自信があるから他者を受け入れにくい、と。それは日本で編集を終えた河瀬さん

が直面したフランスでの経験と似ていませんか？

河瀬 そうですね。ですから最初はもちろん抵抗しました。音がクリアでないから伝わらないんだ。字幕をつけていないから圧縮された映像が美しくないから等。しかし今から考えるとそのほとんどが言い訳じみたものです。そんなときふと彼らの声に耳を傾けてみました。すると自分の意見の中に彼らのいわんとしていることの真意が存在しているのに気づいたんです。まず、受け入れる。そうして自分の意見と照らし合わせてみる。そうすればまったく新しい見解が生まれるんです。

今後の展望をお聞かせください。

河瀬 いつの時代もそうだと思いますが、独自性を獲得したひとの元へは必ずそれを慕うひとが集います。

それは、その方の死後もいえることです。死んだらひとは終わる、のではなくそのひとの息吹はきちんと伝達されてゆきます。この歴史深い奈良の地で先人の遺した息吹をしつかりと感じながら、わたしなりの千年先にも届く想いをかたちにして遺してゆきたいと思えます。



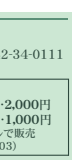
河瀬直美 かわせ なおみ・映画作家



<http://www.kawasenaomi.com>

うだしげき

「ぶらり奈良町」の発行人&古書喫茶「ちちろ」店主。今作品「殞の森」では亡くした妻を思いながらグループホームで暮らす認知症の老人役を演じる。



「殞の森」-ひとコマもがり-

最新作「殞の森」をひとコマフィルムの購入でサポートするスタッフ制度です。あなたの名前がパンフレットに！
申し込み方法
〈ひとコマ〉 一口 2000円
〈払込先 郵便振替番号〉
00970-9-245449
〈口座名称〉
ひとコマもがり
郵便局の払込取り扱い票に、あなたの郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号をご記入ください。

河瀬直美監督作品上映会
2007年3月10日(土)・11日(日)
なら100年会館大ホール

【問】なら100年会館 0742-34-0111
有限会社 組劇

3/10	11:00~ 沙羅双樹	14:00~ 火垂	19:00~ 萌の朱雀
3/11	11:00~ 萌の朱雀	14:00~ 火垂	18:00~ 沙羅双樹

チケット(全席自由)
フリーパス(2日間有効)...2,000円
1回券...1,000円
なら100年会館、学園前ホールで販売
チケットぴあ(Pコード477-203)



奈良の魅力って何ですか？



株式会社
三輪そうめん山本
代表取締役社長
山本 太治氏



にゅうめん (上)
恋そうめん (下)

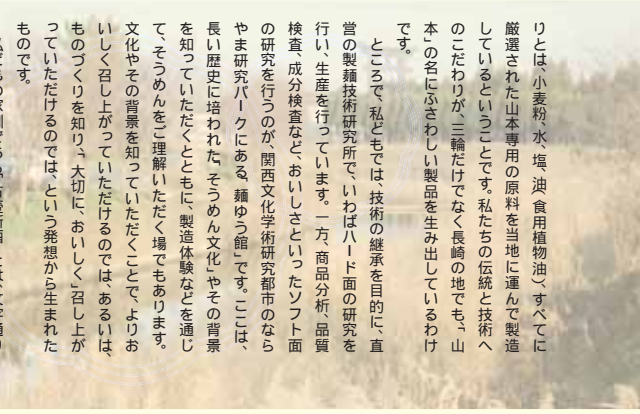
「古壺新酒」——伝えるものと創りだすものと

そ うめんは日本人の心に響いている大切な食文化です。わが社では、この三輪の地で培われた伝統の技を継承しながら、そうめん作りを続けています。粉をこねたり踏んだりするために道具を使いますが、そのほかの工程はすべて職人の手作りです。また、原料の小麦粉や三輪の水にこだわって伝統の味・品質を守っています。

そうめんは、原料の配合から小麦粉のこね、撚り、36時間の熟成を経て、「手延べ」とよばれる製法で延ばされ、乾燥、そして19センチに切りそろ

えられて、製品が完成します。生産性のことだけを考えれば、機械化や熟成の短縮など、効率化を図ることもできますが、味や食感といった食の根幹を犠牲にしてしまつことになりません。直径1.3ミリという細さですが、伝統と技にこだわった製法の証でもあります。

また、弊社では、長崎県にも生産拠点をもち、当社指定の製造家による生産を行っています。もとより、三輪そうめんという名を冠してはいませんが、高度な技術が三輪のこだわりと出会い、より高品質な製品が生まれています。こだわ



りとは、小麦粉、水、塩、食用植物油(すべてに厳選された山本専用の原料を当地に運んで製造している)ということですが。私たちの伝統と技術へのこだわりが、三輪だけでなく長崎の地でも、山本の名にふさわしい製品を生み出しているわけです。

発ち行っています。国際線機内食にも採用され、世界中の旅行者やビジネスマンに伝統の味を提供しています。そうめんという食を通じて、この奈良の三輪で生まれ、培われた伝統文化の継承と新たな挑戦が続きます。

私は、常に奈良は偉大な田舎だと思っています。それは、少し前の良さが残っているところ、歴史や文化が素朴な形で残っている、ということとです。それは、外に出て初めてわかる良さでもあると思っています。そのような歴史や文化の延長線上に、私どもの仕事があるようにも思っています。他方、それは今の私たちが、1000年後に残つてゆくような新たなものをつくりだしていないということでもあると思うのです。奈良の都は、1300年前に当時の叡智と技術を結集してつくられた。平城遷都1300年という節目を目前に控え、1300年を機に、当時の意気込みを現在のわれわれが見せるべき時とも考えています。1717年享保2年創業の当社は今年で290年を迎えます。私どもそのひそみに倣い、新たな一歩を踏み出したいと思えます。(談)



株式会社 三輪そうめん山本
〒633-0072 桜井市審中880
☎0744-43-6661 (代表)
☎0744-43-6666 (FAX)
http://www.miwayama.co.jp
miwayama@miwayama.co.jp

伊勢・鳥羽・志摩へは
近鉄特急で快適に!

旅客案内テレフォンセンター
(9:00~19:00/年中無休)
06-6771-3105
http://www.kintetsu.com/

四季折々美味探求
みさき寿司や柿の葉すし、創作すしの
風味豊かな手づくり味をお楽しみください。

株式会社 中谷本舗。
〒631-0011 奈良市押部町2141-1
TEL0742-69-0000 FAX0742-41-6030
http://www.icasa.co.jp

梅乃宿
万葉の浪漫が薫る
大和の地酒。

梅乃宿酒造株式会社
奈良県郡城市東堂27 TEL0745-69-2121
URL http://www.umenoyado.com/

KIRIN
10
キリンビール株式会社 奈良支社
http://www.kirin.co.jp/kansai

飲酒は20歳以上から、お酒は楽しく、
ほどほどに。のんだあとほろリサイクル。
妊婦中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の
発育に影響を与えるおそれがあります。

奈良豊澤酒造株式会社
奈良市今市町405番地
☎0742-76-1763
6
http://nara-toyosawa.jp/index.htm

三輪
山本
三輪そうめん

〒633-0072 桜井市審中880
TEL0744-43-6661 FAX0744-43-6666
http://www.miwayama.co.jp

どんなに生活が変化しても
人と人のつながりは
変わってほしくないと
願いたいものです。
〈ナント〉はこれからも
人と人のつながりを大切に
地域の皆さまとともに
歩んでいきたいと思えます。

南都銀行はまほろばの心を 未来へと伝えます。



NANTO 南都銀行
奈良市橋本町16 TEL.0742-22-1131

編集後記



写真撮影：辻村守

私 たちは、時間・空間というフレームのなかで、いはば、公の時間・空間を生きています。現代では、何もかもが物理的な量で測られ、それに喜ぶ愛するかのような生き方を強いられているともいえそうです。一方で、私たちは、私的な時間・空間を意識し、生きることもできるはずですが、隅々まで均質化しつつある日常生活では、なかなかそのような意識をもつこと自体が難しくなっているのではないで

ようか。たとえていえば、気温と体温の差とか日常と非日常の境界があまりいまいになるといふか、きわめて「個」的な時間や空間を感じ、生きることが難しくなっているような気がします。文化とは、文字通りそこを耕すことで、何ものが新たに生み出される場であるということを考えて、現代の私たちが、そこに身をおき、呼吸し、対話することによって、われわれが触発される場ではないかと思えます。奈良には、時が移り、都が遷り、あたかも封印されてしまったかのような、時間空間があるいは文化が、そこかしこにあります。それは痕跡というようにものもありますし、現に日常に見え隠れしているものもあります。あじわうということは、そのような時間や空間に身をゆだねること、五感が研ぎ澄まされるといふことのように思われます。そして、奈良には、既存の観光地では不可能なような時空間に身をゆだねることのできる場所が数多くあるということにいまさらながら気づかされました。

ところで、第2号から、「五感」をキーワードに奈良を眺めてきました。次号からは、また違った切り目で、奈良の姿を見つめてみたいと考えています。ご期待ください。(一)

ナラワヨム 第6号 平成19年2月17日発行

企画編集 奈良県立図書情報館 発行責任者 乾 昌弘

発行者 ナラワヨム発行委員会

(株)南都銀行/(株)明新社/キリンビール(株)奈良支社/梅乃宿酒造(株)/奈良豊澤酒造(株)/

(株)中谷本舗/近畿日本鉄道(株)/(株)三輪そうめん山本

編集協力 (株)読売奈良ライフ 題字 紫舟

本誌の無断複写・複製・転載を禁じます。

7色印刷・イベント・IT・セールスプロモーション・ノベルティ



株式会社 明新社

URL <http://www.meishin.co.jp>
E-Mail info@meishin.co.jp

- 本社 630-8141 奈良市南宮終町3丁目464番地
TEL 0742-63-0661 (代) FAX 0742-63-0660
- 大阪営業所 543-0001 大阪市天王寺区上本町6丁目6番1号
TEL 06-6771-4501 (代) FAX 06-6773-0492
- もちいどのお店 630-8217 奈良市橋本町36番地
TEL 0742-23-3131 (代) FAX 0742-26-0093



JQA-EM2026
本社



環境にやさしい大豆油
インキを使用しています。